

学校コード F126310107724
注3

設置年度 令和 4年度
計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
京都美術工芸大学 建築学部

(必要がある場合) ○○専攻

**【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)**

学校法人二本松学院
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	京都美術工芸大学 事務局
職名・氏名	シムズチョウ イワガキ コウソウ 事務部長 稲垣 幸三
電話番号	075-525-1515
(夜間)	075-533-6030
e-mail	kuriyama-y@kyobi.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「○○大学」
- 学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

建築学部

＜建築学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人二本松学院

(2) 大学名

京都美術工芸大学

(3) 調査対象大学等の位置

京都美術工芸大学 京都東山キャンパス
〒600-0991
京都府京都市東山区川端通七条上ル

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シタニ ヒデカズ) 新谷 秀一 (令和4年4月1日)		
学長	(シタニ ヒロヒサ) 新谷 裕久 (令和4年4月1日)	(タケワキ イズル) 竹脇 出 (令和5年4月1日)	新谷裕久は令和5年3月31日で任期満了し、竹脇出が令和5年4月1日に就任した(5)
学部長	(イノウエ シンイチ) 井上 晋一 (令和4年4月1日)		
学科長等	(イノウエ シンイチ) 井上 晋一 (令和4年4月1日)	(ヤスタ テルオ) 安田 光男 (令和5年4月1日)	井上晋一は学部長・学科長を兼務していたが、令和5年3月31日で兼務を解除し、安田光男が令和5年4月1日に就任した(5)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)

令和5年度に報告する内容 → (5)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
建築学部 建築学科 学士(工芸)	美術関係	4 年	150 人	2年次 0 人 3年次 5 人 4年次 0 人	610 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	150 (5) [-]	- (-) [-]	150 (5) [-]	- (-) [-]	1.05倍	一倍	1.03倍	一倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	531 (-) [5]	- (-) [-]	433 (-) [1]	- (-) [-]					
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	502 (-) [4]	- (-) [-]	398 (-) [1]	- (-) [-]					
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	234 (-) [0]	- (-) [-]	267 (-) [0]	- (-) [-]					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	163 (-) [0]	- (-) [-]	154 (-) [0]	- (-) [-]					
入学定員超過率 B/A									1.08		1.02						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、()書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	163 [0] (-)	- [-] (-)	158 [0] (3)	- [-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	151 [0] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	163 [0] (-)		309 [0] (3)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	163人	8人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	8人	0人	進路変更
令和5年度	154人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	0人	0人	
合計		8人		8人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{163} = \boxed{4.9} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{154} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<建築学部 建築学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	歴史学	2後		2								1
	美学	1前		2								1
	技芸と文学	3前		2								1
	栄養学入門	1後		2								1
	生涯学習論	1前		2								1
	生活と法律	1後		2								1
	博物館概論	1前		2								1
	森林学概論	1後		2								1
	科学と芸術	2後		2								1
	工芸と経済	2後		2								1
	伝統と学び	3前		2								1
	哲学	3後		2								1
	教育学	3後		2								1
	世界文化遺産論	1後		2								1
	地域社会論	1前		2								1
	人間関係の科学	1前		2								1
	人間関係の心理臨床	3後		2								1
	表現技術論	2前		2								1
小計(18科目)	-	0	36	0	0	0	0	0	0	0	14	
伝統文化科目	日本工芸美術史	1後	2									1
	京都学	1前		2		1						1
	伝統芸術入門Ⅰ	2前		1								4
	伝統芸術入門Ⅱ	2後		1								4
	日本文化史	4前		2								2
	京都学演習Ⅰ	2後	2			2	2	1				
	京都学演習Ⅱ	4前		2		1	1					
小計(7科目)	-	4	8	0	4	2	1	0	0	0	8	
コミュニケーション科目	日本語表現法	1後		1								1
	英会話Ⅰ	1前	1									1
	美術工芸英語	1後	1									1
	英会話Ⅱ	2前		1								1
	英語コミュニケーション	3前		1								1
	情報基礎演習	1前	2				4					
	総合コミュニケーション	3前		1								2
小計(7科目)	-	4	4	0	0	0	4	0	0	0	5	
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1前		2								13
	しごと論Ⅱ	3前		2		9	4	2				
	社会活動Ⅰ	1通		1		1	1	1				2
	社会活動Ⅱ	2通		1		1	1	1				2
	インターンシップ	3通		2				1				
	メディアリテラシー	1後		2				1				
	現代社会論	3後		2								1
	小計(7科目)	-	0	12	0	8	4	4	0	0	0	17
基本科目	伝統工芸概論	1前		2								5
	構成基礎演習	1前		1		3		3				
	日本住居史	1前		2			1					
	色彩学	1前		2								1
	日本美術史	1前		2								1
	デザイン概論	1後		2								1
	日本建築史	2前		2			1					
	西洋美術史	2前		2								1
	東洋美術史	2前		2								1
	建築計画Ⅰ	1後		2		1						
	構法計画Ⅰ	1前		2		1		1				
	建築構造力学Ⅰ	2前		2		1		1				
	建築CAD演習Ⅰ	1後		2		2		1				1
	建築概論	1前		2		1						
	文化財概論	1後		2								1
小計(15科目)	-	0	29	0	6	1	4	0	0	0	10	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	歴史学	2後		2								1
	美学	1前		2								1
	技芸と文学	3前		2								1
	栄養学入門	1後		2								1
	生涯学習論	1前		2								1
	生活と法律	1後		2								1
	博物館概論	1前		2								1
	森林学概論	1後		2								1
	科学と芸術	2後		2								1
	工芸と経済	2後		2								1
	伝統と学び	3前		2								1
	哲学	3後		2								1
	教育学	3後		2								1
	世界文化遺産論	1後		2								1
	地域社会論	1前		2								1
	人間関係の科学	1前		2								1
	人間関係の心理臨床	3後		2								1
	表現技術論	2前		2								1
小計(18科目)	-	0	36	0	0	0	0	0	0	0	14	
伝統文化科目	日本工芸美術史	1後	2									1
	京都学	1前		2								1
	伝統芸術入門Ⅰ	2前		1								4
	伝統芸術入門Ⅱ	2後		1								4
	日本文化史	4前		2								2
	京都学演習Ⅰ	2後	2			2	2	1				
	京都学演習Ⅱ	4前		2		1	1					
小計(7科目)	-	4	8	0	4	1	1	1	1	0	9	
コミュニケーション科目	日本語表現法	1後		1								1
	英会話Ⅰ	1前	1									1
	美術工芸英語	1後	1									1
	英会話Ⅱ	2前		1								1
	英語コミュニケーション	3前		1								1
	情報基礎演習	1前	2				4					
	総合コミュニケーション	3前		1								2
小計(7科目)	-	4	4	0	0	1	4	0	0	0	5	
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1前		2				1				14
	しごと論Ⅱ	3前		2				9	3			2
	社会活動Ⅰ	1通		1				1	1			3
	社会活動Ⅱ	2通		1				1	1			3
	インターンシップ	3通		2					1			
	メディアリテラシー	1後		2					1			
	現代社会論	3後		2								1
	小計(7科目)	-	0	12	0	9	3	2	0	0	0	19
基本科目	伝統工芸概論	1前		2								5
	構成基礎演習	1前		1		3		3				
	日本住居史	1前		2			1					
	色彩学	1前		2								1
	日本美術史	1前		2								1
	デザイン概論	1後		2								1
	日本建築史	2前		2			1					
	西洋美術史	2前		2					1			1
	東洋美術史	2前		2								1
	建築計画Ⅰ	1後		2		1			1			
	構法計画Ⅰ	1前		2		1		1				
	建築構造力学Ⅰ	2前		2		1		1				
	建築CAD演習Ⅰ	1後		2		2		1	2			1
	建築概論	1前		2		1						
	文化財概論	1後		2								1
小計(15科目)	-	0	29	0	6	3	5	1	0	0	11	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	歴史学	2後		2								1
	美学	1前		2								1
	技芸と文学	3前		2								1
	栄養学入門	1後		2								1
	生涯学習論	1前		2								1
	生活と法律	1後		2								1
	博物館概論	1前		2								1
	森林学概論	1後		2								1
	科学と芸術	2後		2								1
	工芸と経済	2後		2								1
	伝統と学び	3前		2								1
	哲学	3後		2								1
	教育学	3後		2								1
	世界文化遺産論	1後		2								1
	地域社会論	1前		2								1
	人間関係の科学	1前		2								1
	人間関係の心理臨床	3後		2								1
	表現技術論	2前		2								1
小計(18科目)			0	36	0	0	0	0	0	0	0	14
伝統文化科目	日本工芸美術史	1後	2									1
	京都学	1前		2		1						
	伝統芸術入門Ⅰ	2前		1								4
	伝統芸術入門Ⅱ	2後		1								4
	日本文化史	4前		2								2
	京都学演習Ⅰ	2後	2			3	1	1	1			
	京都学演習Ⅱ	4前		2		1	1					
小計(7科目)		4	8	0	5	1	1	1	0	0	8	
コミュニケーション科目	日本語表現法	1後		1								1
	英会話Ⅰ	1前	1									1
	美術工芸英語	1後	1									1
	英会話Ⅱ	2前		1								1
	英語コミュニケーション	3前		1								1
	情報基礎演習	1前	2					4				2
	総合コミュニケーション	3前		1								2
小計(7科目)		4	4	0	0	0	4	0	0	0	5	
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ	1前		2		2						13
	しごと論Ⅱ	3前		2		10	3					1
	社会活動Ⅰ	1通		1		1	1	1				2
	社会活動Ⅱ	2通		1		1	1	1				2
	インターンシップ	3通		2				1				
	メディアリテラシー	1後		2				1				
	現代社会論	3後		2								1
小計(7科目)		0	12	0	10	3	2	0	0	0	18	
基本科目	伝統工芸概論	1前		2								5
	構成基礎演習	1前		1		1	2	2	1			1
	日本住居史	1前		2			1					
	色彩学	1前		2								1
	日本美術史	1前		2								1
	デザイン概論	1後		2								1
	日本建築史	2前		2			1					
	西洋美術史	2前		2								1
	東洋美術史	3後		2								1
	建築計画Ⅰ	1後		2				1				
	構法計画Ⅰ	1前		2		1		1				
	建築構造力学Ⅰ	2前		2		1		1				
	建築CAD演習Ⅰ	1後		2		2	1	1				1
	建築概論	1前		2		1						
	文化財概論	1後		2								1
小計(15科目)		0	29	0	5	3	4	1	0	0	11	

基 幹 科 目	デザイン作図演習	2前	2		2	2	2			1	
	デザインと法規	2後	2							1	
	都市空間論	3前	2							1	
	景観デザイン論	3前	2	1							
	文献・絵画史料概論	2前	2							1	
	伝統構造学	3後	2		1						
	建築CAD演習Ⅱ	2前	2	3		2				1	
	建築計画Ⅱ	2前	2	1							
	構法計画Ⅱ	1後	2	1		1					
	建築材料	2後	2			1					
	建築法規	2後	2							1	
	建築構造力学Ⅱ	2後	2	1		1					
	建築環境工学	2前	2							1	
	世界建築史	2前	2							1	
小計(14科目)		0	28	0	6	3	6	0	0	8	
展 開 科 目	古文書解読演習Ⅰ	3前	1							1	
	伝統建築図	3後	2		1					1	
	京町家再生論	3後	2		3						
	古文書解読演習Ⅱ	3後	1							1	
	社寺建築論	3前	2		1						
	近代建築史	2後	2			1					
	室内意匠論	3後	2		1						
	建築計画Ⅲ	2後	2		1						
	建築計画Ⅳ	3前	2		1						
	都市計画	2後	2		1						
	建築設備	2後	2							1	
	建築構造力学Ⅲ	3後	2			1					
	建築生産論	3後	2		1						
	公共デザイン論	3後	2		1					1	
小計(14科目)		0	26	0	8	0	2			4	
専 門 演 習 ・ 実 習 科 目	建築設計導入実習	1前	3			1	4	1			
	建築設計基礎演習Ⅰ	1後	4			9	3	3	1	4	
	建築設計基礎演習Ⅱ	2前	4			9	3	4	1	3	
	建築設計演習Ⅰ	2後	4			9	3	4	1	3	
	建築設計演習Ⅱ	3通	6			9	4	5	1	3	
	建築設計演習Ⅲ	4前	4			9	3	4	1		
	卒業研究	4後	6			9	4	3	1		
	小計(7科目)		31	0	0	9	4	5	1	0	5
博 物 館 学 芸 員 養 成 科 目	博物館経営論	2後			2					1	
	博物館資料論	2前			2					2	
	博物館資料保存論	3前			2					1	
	博物館展示論	3後			2					1	
	博物館情報・メディア論	4前			2					1	
	博物館教育論	4前			2					1	
	博物館実習	4通			3					1	
	小計(7科目)		0	0	15	0	0	0	0	0	7
合計(96科目)		-	39	143	15	11	4	6	1	0	61
卒業要件及び履修方法											
(記入例)											
必修科目24単位、専門基礎科目の選択科目から22単位、専門応用科目の選択科目から18単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：44単位(年間))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし

【令和5年度】

特になし

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
12 科目	77 科目	7 科目	96 科目	12 科目 [±0]	77 科目 [±0]	7 科目 [±0]	96 科目 [±0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{96} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考	
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校 〈専〉京都建築大専校、定員1650人 〈専〉京都伝統工芸大専校、定員 530人 専修学校設置基準第45条に定める 校舎等に必要面積の校地を備え ている。 〈専〉京都建築大専校、4,850㎡ 〈専〉京都伝統工芸大専校、1,730㎡ 借地：16,176㎡、25年 借地：8,108㎡、60年	
	校 舎 敷 地	6,508㎡	2,863㎡	3,863㎡	13,234㎡		
	運 動 場 用 地	1,425㎡	8,799㎡	0㎡	10,224㎡		
	小 計	7,933㎡	11,662㎡	3,863㎡	23,458㎡		
	そ の 他	1,778㎡	60,180㎡	0㎡	61,958㎡		
	合 計	9,711㎡	71,842㎡	3,863㎡	85,416㎡		
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用する他の学校に必要な校舎面 積 〈専〉京都建築大専校、4,850㎡ 〈専〉京都伝統工芸大専校、1,730㎡	
		21,898㎡ (21,898㎡)	575㎡ (575㎡)	14,198㎡ (14,198㎡)	36,671㎡ (36,671㎡)		
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情 報 処 理 学 習 施 設	語 学 学 習 施 設	大学全体	
	13室	24室	26室	3室 (補助職員 -人)	1室 (補助職員 -人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			
	建築学部 建築学科			24 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点
		建築学部 建築学科	1,620 [600] (1,313 [481]) (1,902 [664]) (2,082 [696])	16 [5] (16 [6])	4 [3] (4 [3])	50 (50)	0 (0)
	計	1,620 [600] (1,313 [481]) (1,902 [664]) (2,082 [696])	16 [5] (16 [6])	4 [3] (4 [3])	50 (50)	0 (0)	0 (0)
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
	1,420㎡		104		53,500冊		
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				
	1,157㎡ なし						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	2,500千円	2,500千円
		共同研究費等	—千円	—千円	設備購入費	—千円	—千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,740千円	1,550千円	1,550千円	1,550千円	—千円	—千円
学生納付金以外の維持方法の概要		私立学校等経常経費補助金、手数料収入、雑収入等					

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称		京都美術工芸大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
芸術学部 デザイン・工芸学科	4	100	3年次 5	410	学士(工芸)	1.03	-	0.96	-	-	平成24	■京都東山キャンパス 京都府京都市東山区川端通七条上ル	平成28年度に工芸学部建築学科を開設。						
建築学部 建築学科	4	150	3年次 5	610	学士(工芸)	1.05	-	1.03	-	-	令和4	同上	令和4年度に工芸学部から建築学部へ独立・改組した。 なお、改組した建築学部建築学科の入学定員および収容定員に変更はない。						
大学全体	4	250	3年次 10	1020	-	-	-	-	-	-	-	-							

大学の名称												平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
大学全体																			

大学の名称												平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考						
大学全体																			

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<建築学部 建築学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名		担当授業科目名	
専任	教授(学長)	新谷 裕久 (60) <令和4年4月> 博士(歯学)	専任	教授(学長)	兼任	教授(学長)(副学長)	新谷 裕久 (61) <令和4年4月> 博士(歯学)
	京都学 しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ			京都学 しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ		京都学 しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ	
							竹論 出 (85) <令和5年4月> 工学博士
							建築構造力学Ⅰ 建築構造力学Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究
専任	教授(学部長)	高田 光雄 (70) <令和4年4月> 博士(工学)	専任	教授(副学長)	専任	教授(副学長)	高田 光雄 (71) <令和4年4月> 博士(工学)
	建築計画Ⅳ 京町家再生論 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅳ 建築概論 京町家再生論 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究		建築計画Ⅳ 建築概論 京町家再生論 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅰ ※ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専任	教授(学部長)	井上 晋一 (53) <令和4年4月> 博士(工学)	専任	教授(学部長兼学科長)	専任	教授(学部長兼学科長)	井上 晋一 (54) <令和4年4月> 博士(工学)
	京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究		京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専任	教授	種村 俊昭 (70) <令和4年4月> 博士(工学)					
	建築概論 建築計画Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 構成基礎演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究						
専任	教授	戸高 太郎 (52) <令和4年4月> 修士(工学)	専任	教授	専任	教授	戸高 太郎 (53) <令和4年4月> 修士(工学)
	構法計画Ⅰ 構法計画Ⅱ 建築構造力学Ⅰ 建築構造力学Ⅱ			構法計画Ⅰ 構法計画Ⅱ 建築構造力学Ⅰ 建築構造力学Ⅱ		構法計画Ⅰ 構法計画Ⅱ 建築構造力学Ⅰ 建築構造力学Ⅱ	
専任	教授	大上 直樹 (66) <令和4年4月> 博士(学術)	専任	教授	専任	教授	大上 直樹 (67) <令和4年4月> 博士(学術)
	社寺建築論 伝統建築図 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			社寺建築論 伝統建築図 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究		社寺建築論 伝統建築図 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	教授	山内 貴博 (51) <令和4年4月> 博士(美術)	専	教授	山内 貴博 (51) <令和4年4月> 博士(美術)	専	教授	山内 貴博 (52) <令和4年4月> 博士(美術)
	景観デザイン論 公共デザイン論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			景観デザイン論 公共デザイン論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			景観デザイン論 公共デザイン論 しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	教授	安田 光男 (50) <令和4年4月> 博士(学術)	専	教授	安田 光男 (50) <令和4年4月> 博士(学術)	専	教授(学長)	安田 光男 (51) <令和4年4月> 博士(学術)
	建築計画Ⅱ 建築CAD演習Ⅰ 建築CAD演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅱ 建築CAD演習Ⅰ 建築CAD演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅱ 建築CAD演習Ⅰ 建築CAD演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	教授	小堀 吉隆 (62) <令和4年4月> 学士(学術)	専	教授	小堀 吉隆 (62) <令和4年4月> 学士(学術)	専	教授	小堀 吉隆 (63) <令和4年4月> 学士(学術)
	室内意匠論 構成基礎演習 デザイン作図演習 しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			室内意匠論 構成基礎演習 デザイン作図演習 しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			室内意匠論 構成基礎演習 デザイン作図演習 しごと論Ⅱ ※ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	教授	新海 俊一 (55) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	新海 俊一 (55) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	新海 俊一 (56) <令和4年4月> 博士(工学)
	都市計画 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			都市計画 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			都市計画 京都学演習Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 建築CAD演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	准教授	河村 大助 (59) <令和4年4月> 修士(芸術学)	専	准教授	河村 大助 (59) <令和4年4月> 修士(芸術学)	専	准教授	河村 大助 (60) <令和4年4月> 修士(芸術学)
	建築生産論 構成基礎演習 しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築生産論 構成基礎演習 しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築生産論 構成基礎演習 しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	准教授	森重(朽木) 幸子 (44) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	森重(朽木) 幸子 (44) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	森重(朽木) 幸子 (45) <令和4年4月> 博士(工学)
	建築計画Ⅲ しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅲ しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅲ しごと論Ⅱ ※ デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	准教授	井上 年和 (52) <令和4年4月> 修士(工学)	専	准教授	井上 年和 (52) <令和4年4月> 修士(工学)	専	准教授	井上 年和 (53) <令和4年4月> 修士(工学)
	日本住居史 日本建築史 伝統構造学 京都学演習Ⅰ 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			日本住居史 日本建築史 伝統構造学 京都学演習Ⅰ 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			日本住居史 日本建築史 伝統構造学 京都学演習Ⅰ 京都学演習Ⅱ しごと論Ⅱ ※ 社会活動Ⅰ 社会活動Ⅱ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	准教授	生川 慶一郎 (48) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	生川 慶一郎 (48) <令和4年4月> 博士(工学)	専	教授	生川 慶一郎 (48) <令和4年4月> 博士(工学)
	京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 京都学演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 京都学演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			京町家再生論 しごと論Ⅱ ※ 京都学演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	講師	人見 将敏 (38) <令和4年4月> 博士(建築学)	専	准教授	人見 将敏 (38) <令和4年4月> 博士(建築学)	専	准教授	人見 将敏 (39) <令和4年4月> 博士(建築学)
	しごと論Ⅱ ※ 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築計画Ⅰ しごと論Ⅱ ※ 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	
専	講師	岡北 一孝 (40) <令和4年4月> 博士(学術)						
	世界建築史 しごと論Ⅱ ※ 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究							
専	講師	杏 義啓 (70) <令和4年4月> 学士(工学)						
	構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究							
専	講師	山田 幸秀 (64) <令和4年4月> 学士(文学)	専	講師	山田 幸秀 (64) <令和4年4月> 学士(文学)	専	講師	山田 幸秀 (65) <令和4年4月> 学士(文学)
	メディアリテラシー インターンシップ			メディアリテラシー インターンシップ			メディアリテラシー インターンシップ	
専	講師	根来 宏典 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	根来 宏典 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	根来 宏典 (49) <令和4年4月> 博士(工学)
	建築材料 建築CAD演習Ⅱ 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築材料 建築CAD演習Ⅱ 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			建築材料 建築CAD演習Ⅱ 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	講師	永井 秀幸 (44) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	永井 秀幸 (44) <令和4年4月> 博士(工学)			
	情報基礎演習 建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究			情報基礎演習 建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究				
専	講師	江本 弘 (37) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	江本 弘 (37) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	江本 弘 (38) <令和4年4月> 博士(工学)
	近代建築史 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究			近代建築史 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究			近代建築史 構成基礎演習 デザイン作図演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究	
専	講師	新谷 謙一郎 (30) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	新谷 謙一郎 (30) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	新谷 謙一郎 (31) <令和4年4月> 博士(工学)
	構法計画 I 構法計画 II 建築構造力学 I 建築構造力学 II 建築構造力学 III 情報基礎演習 建築設計導入実習 建築設計演習 II 社会活動 I 社会活動 II			構法計画 I 構法計画 II 建築構造力学 I 建築構造力学 II 建築構造力学 III 情報基礎演習 建築設計導入実習 建築設計演習 II 建築設計演習 III 社会活動 I 社会活動 II			構法計画 I 構法計画 II 建築構造力学 I 建築構造力学 II 建築構造力学 III 情報基礎演習 建築設計導入実習 建築設計演習 II 建築設計演習 III 社会活動 I 社会活動 II	
			専	准教授	宮内 智久 (45) <令和4年4月> 修士(建築学)	専	准教授	宮内 智久 (46) <令和4年4月> 修士(建築学)
				情報基礎演習 建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究			情報基礎演習 建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究	
						専	准教授	白鳥 洋子 (54) <令和4年10月> 博士(工学)
								世界建築史 情報基礎演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究
			専	講師	杉本 直子 (56) <令和4年4月> 博士(学術)	専	講師	杉本 直子 (57) <令和4年4月> 博士(学術)
				京都学演習 I デザイン作図演習 構成基礎演習 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II			京都学演習 I デザイン作図演習 構成基礎演習 建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I 建築設計演習 II 建築設計演習 III 卒業研究	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
			専	講師	砂川 晴彦 (30) <令和4年4月> 博士(工学)	専	講師	砂川 晴彦 (31) <令和4年4月> 博士(工学)
					日本建築史 京都学演習Ⅰ 構成基礎演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究			日本建築史 京都学演習Ⅰ 構成基礎演習 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究
						専	講師	黒田 祐五 (53) <令和5年1月> 修士(芸術)
								建築CAD演習Ⅰ 建築CAD演習Ⅱ 建築設計導入実習 建築設計基礎演習Ⅰ 建築設計基礎演習Ⅱ 建築設計演習Ⅰ 建築設計演習Ⅱ 建築設計演習Ⅲ 卒業研究
兼任	教授	安藤 眞吾 (70) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	安藤 眞吾 (70) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	兼任 特任 教授	安藤 眞吾 (71) <令和4年4月> 修士(芸術学)
	色彩学			色彩学			色彩学	
	デザイン概論			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※	
	総合コミュニケーション			デザイン概論			デザイン概論	
				総合コミュニケーション			総合コミュニケーション	
兼任	教授	中井川 正道 (64) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	中井川 正道 (64) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	中井川 正道 (65) <令和4年4月> 修士(芸術学)
	表現技術論			表現技術論			表現技術論	
	総合コミュニケーション			総合コミュニケーション			総合コミュニケーション	
	都市空間論			都市空間論			都市空間論	
	公共デザイン論			公共デザイン論			公共デザイン論	
兼任	教授	ヒルド 麻美 (66) <令和4年4月> 修士(文学) Master of Arts in English(米国)	兼任	教授	ヒルド 麻美 (66) <令和4年4月> 修士(文学) Master of Arts in English(米国)	兼任	教授	ヒルド 麻美 (67) <令和4年4月> 修士(文学) Master of Arts in English(米国)
	英会話Ⅰ			英会話Ⅰ			英会話Ⅰ	
	美術工芸英語			美術工芸英語			美術工芸英語	
	英会話Ⅱ			英会話Ⅱ			英会話Ⅱ	
	英語コミュニケーション			英語コミュニケーション			英語コミュニケーション	
兼任	教授	浅見 武 (59) <令和4年4月> 学士(経済学)						
	伝統工芸概論 ※							
兼任	教授	小林 泰弘 (62) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	小林 泰弘 (62) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	小林 泰弘 (63) <令和4年4月> 修士(芸術学)
	伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※	
兼任	教授	津村 健一 (54) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	津村 健一 (54) <令和4年4月> 修士(芸術学)	兼任	教授	津村 健一 (55) <令和4年4月> 修士(芸術学)
	社会活動Ⅰ			社会活動Ⅰ			社会活動Ⅰ	
	社会活動Ⅱ			社会活動Ⅱ			社会活動Ⅱ	
兼任	教授	宮本 貞治 (68) <令和4年4月> 高等学校卒	兼任	教授	宮本 貞治 (68) <令和4年4月> 高等学校卒	兼任	教授	宮本 貞治 (69) <令和4年4月> 高等学校卒
	しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※	
兼任	准教授	三木 啓樂 (50) <令和4年4月> 学士(美術)	兼任	准教授	三木 啓樂 (50) <令和4年4月> 学士(美術)	兼任	准教授	三木 啓樂 (51) <令和4年4月> 学士(美術)
	しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※	
兼任	講師	岡 達也 (39) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	岡 達也 (39) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	岡 達也 (40) <令和4年4月> 博士(学術)
	博物館概論			博物館概論			博物館概論	
	博物館資料論			博物館資料論			博物館資料論	
	博物館実習			博物館実習			博物館実習	
兼任	講師	木村 奈保 (49) <令和4年4月> 学士(工芸学)	兼任	講師	木村 奈保 (49) <令和4年4月> 学士(工芸学)	兼任	講師	木村 奈保 (50) <令和4年4月> 学士(工芸学)
	博物館実習			博物館実習			博物館実習	
兼任	助教	加納 奈都 (27) <令和4年4月> 学士(工芸学)	兼任	助教	加納 奈都 (27) <令和4年4月> 学士(工芸学)	兼任	助教	加納 奈都 (28) <令和4年4月> 学士(工芸学)
	社会活動Ⅰ			社会活動Ⅰ			社会活動Ⅰ	
	社会活動Ⅱ			社会活動Ⅱ			社会活動Ⅱ	
兼任	特任 教授	川原 潤 (57) <令和4年4月> 修士(美術)	兼任	特任 教授	川原 潤 (58) <令和4年4月> 修士(美術)	兼任	特任 教授	川原 潤 (58) <令和4年4月> 修士(美術)
				しごと論Ⅱ※			しごと論Ⅱ※	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	
兼任	講師	中村 卓 (41) <令和4年4月> 博士(デザイン学)	建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計演習 II
兼任	講師	山口 尚之 (55) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 I
兼任	講師	堀井 大穂 (50) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 I
兼任	講師	大庭 徹 (40) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I
兼任	講師	細尾 直久 (40) <令和4年4月> 学士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II
兼任	講師	橋本 頼幸 (48) <令和4年4月> 博士(工学)	建築環境工学 建築設備
兼任	講師	大田 精一 (68) <令和4年4月> 修士(工学)	伝統建築図
兼任	講師	山田 滋也 (68) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 II
兼任	講師	村上 真樹 (42) <令和4年4月> 博士(芸術学)	美学 哲学
兼任	講師	岩田 均 (74) <令和4年4月> 博士(経済学)	地域社会論 工芸と経済 博物館経営論
兼任	講師	中村 みどり (34) <令和4年4月> 博士(文学)	歴史学
兼任	講師	武藤 夕佳里 (54) <令和4年4月> 博士(学術)	技芸と文学
兼任	講師	桑原 彩 (52) <令和4年4月> 学士(家政学)	栄養学入門
兼任	講師	吉富 千恵 (49) <令和4年4月> 博士(学術)	生涯学習論 教育学 日本語表現法
兼任	講師	右近 潤一 (49) <令和4年4月> 修士(法学)	生活と法律
兼任	講師	森本 幸裕 (74) <令和4年4月> 博士(農学)	森林学概論
兼任	講師	三木 勲 (47) <令和4年4月> 博士(工芸学)	科学と芸術 世界文化遺産論
兼任	講師	齋藤 桂 (41) <令和4年4月> 博士(文学)	伝統と学び

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	
兼任	講師	中村 卓 (41) <令和4年4月> 博士(デザイン学)	建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計演習 II
兼任	講師	山口 尚之 (55) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 I
兼任	講師	堀井 大穂 (50) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計演習 I
兼任	講師	大庭 徹 (40) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I
兼任	講師	細尾 直久 (40) <令和4年4月> 学士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II
兼任	講師	橋本 頼幸 (48) <令和4年4月> 博士(工学)	建築環境工学 建築設備
兼任	講師	大田 精一 (68) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 伝統建築図
兼任	講師	山田 滋也 (68) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 II
兼任	講師	岩田 均 (74) <令和4年4月> 博士(経済学)	地域社会論 工芸と経済 博物館経営論
兼任	講師	中村 みどり (34) <令和4年4月> 博士(文学)	歴史学
兼任	講師	武藤 夕佳里 (54) <令和4年4月> 博士(学術)	技芸と文学
兼任	講師	桑原 彩 (52) <令和4年4月> 学士(家政学)	栄養学入門
兼任	講師	吉富 千恵 (49) <令和4年4月> 博士(学術)	生涯学習論 教育学 日本語表現法
兼任	講師	右近 潤一 (49) <令和4年4月> 修士(法学)	生活と法律
兼任	講師	森本 幸裕 (74) <令和4年4月> 博士(農学)	森林学概論
兼任	講師	三木 勲 (47) <令和4年4月> 博士(工芸学)	世界建築史 科学と芸術 世界文化遺産論
兼任	講師	齋藤 桂 (41) <令和4年4月> 博士(文学)	伝統と学び

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	
兼任	講師	中村 卓 (42) <令和4年4月> 博士(デザイン学)	建築CAD演習 I 建築CAD演習 II 建築設計演習 II
兼任	講師	山口 尚之 (56) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 I
兼任	講師	大庭 徹 (41) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 II 建築設計演習 I
兼任	講師	細尾 直久 (41) <令和4年4月> 学士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II
兼任	講師	橋本 頼幸 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	建築環境工学 建築設備
兼任	講師	大田 精一 (69) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計基礎演習 I 建築設計基礎演習 II 伝統建築図
兼任	講師	山田 滋也 (69) <令和4年4月> 修士(工学)	建築設計演習 II
兼任	講師	岩田 均 (75) <令和4年4月> 博士(経済学)	地域社会論 工芸と経済 博物館経営論
兼任	講師	中村 みどり (35) <令和4年4月> 博士(文学)	歴史学
兼任	講師	武藤 夕佳里 (55) <令和4年4月> 博士(学術)	技芸と文学
兼任	講師	桑原 彩 (53) <令和4年4月> 学士(家政学)	栄養学入門
兼任	講師	吉富 千恵 (50) <令和4年4月> 博士(学術)	生涯学習論 教育学 日本語表現法
兼任	講師	右近 潤一 (50) <令和4年4月> 修士(法学)	生活と法律
兼任	講師	森本 幸裕 (75) <令和4年4月> 博士(農学)	森林学概論
兼任	講師	三木 勲 (48) <令和4年4月> 博士(工芸学)	世界建築史 科学と芸術 世界文化遺産論
兼任	講師	齋藤 桂 (42) <令和4年4月> 博士(文学)	伝統と学び

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	藤居 尚子 (44) <令和4年4月> 修士(心理学)						
	人間関係の科学 人間関係の心理臨床							
兼任	講師	近藤 利江子 (57) <令和4年4月> 修士(教育学)※	兼任	講師	近藤 利江子 (57) <令和4年4月> 修士(教育学)※	兼任	講師	近藤 利江子 (57) <令和4年4月> 修士(教育学)※
	日本工芸美術史			日本工芸美術史			日本工芸美術史	
兼任	講師	大室 瑞恵 (74) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	大室 瑞恵 (74) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	大室 瑞恵 (75) <令和4年4月> 高等学校卒業
	伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ	
兼任	講師	手塚 博子 (54) <令和4年4月> 学士(美術)	兼任	講師	手塚 博子 (54) <令和4年4月> 学士(美術)	兼任	講師	手塚 博子 (55) <令和4年4月> 学士(美術)
	伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ	
兼任	講師	高林 佑丞 (35) <令和4年4月> 学士(情報社会政策学)	兼任	講師	高林 佑丞 (35) <令和4年4月> 学士(情報社会政策学)	兼任	講師	高林 佑丞 (36) <令和4年4月> 学士(情報社会政策学)
	伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ	
兼任	講師	吉岡 利彦 (69) <令和4年4月> 学士(経営学)						
	伝統芸術入門Ⅰ 伝統芸術入門Ⅱ							
兼任	講師	杉本 歌子 (55) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	杉本 歌子 (55) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	杉本 歌子 (56) <令和4年4月> 高等学校卒業
	日本文化史			日本文化史			日本文化史	
兼任	講師	中谷 武雄 (76) <令和4年4月> 博士(経済学)	兼任	講師	中谷 武雄 (76) <令和4年4月> 博士(経済学)	兼任	講師	中谷 武雄 (77) <令和4年4月> 博士(経済学)
	文化財概論			文化財概論			文化財概論	
兼任	講師	西山 克 (71) <令和4年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	西山 克 (71) <令和4年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	西山 克 (72) <令和4年4月> 修士(文学)※
	文献・絵画史料概論 古文書解読演習Ⅱ			文献・絵画史料概論 古文書解読演習Ⅱ			文献・絵画史料概論 古文書解読演習Ⅱ	
兼任	講師	三野 拓也 (34) <令和4年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	三野 拓也 (34) <令和4年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	三野 拓也 (35) <令和4年4月> 修士(文学)※
	古文書解読演習Ⅰ			古文書解読演習Ⅰ			古文書解読演習Ⅰ	
兼任	講師	若林 卯兵衛 (78) <令和4年4月> 学士(経済学)	兼任	講師	若林 卯兵衛 (78) <令和4年4月> 学士(経済学)	兼任	講師	若林 卯兵衛 (79) <令和4年4月> 学士(経済学)
	伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※	
兼任	講師	八田 誠治 (70) <令和4年4月> 修士(工学)	兼任	講師	八田 誠治 (70) <令和4年4月> 修士(工学)	兼任	講師	八田 誠治 (71) <令和4年4月> 修士(工学)
	伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※			伝統工芸概論 ※	
兼任	講師	田中 水萌 (33) <令和4年4月> 博士(人文学)	兼任	講師	田中 水萌 (33) <令和4年4月> 博士(人文学)	兼任	講師	田中 水萌 (34) <令和4年4月> 博士(人文学)
	日本美術史			日本美術史			日本美術史	
兼任	講師	尾崎 登志子 (31) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	尾崎 登志子 (31) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	尾崎 登志子 (32) <令和4年4月> 修士(文学)
	西洋美術史			西洋美術史			西洋美術史	
兼任	講師	浅萩 毅 (57) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	浅萩 毅 (57) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	浅萩 毅 (58) <令和4年4月> 博士(文学)
	東洋美術史			東洋美術史			東洋美術史	
兼任	講師	松井 宏記 (37) <令和4年4月> 修士(科学)	兼任	講師	松井 宏記 (37) <令和4年4月> 修士(科学)			
	デザインと法規			デザインと法規				
兼任	講師	福田 安佐子 (34) <令和4年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	福田 安佐子 (34) <令和4年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	福田 安佐子 (35) <令和4年4月> 修士(人間・環境学)
	現代社会論			現代社会論			現代社会論	
兼任	講師	和田 積希 (41) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	和田 積希 (41) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	和田 積希 (42) <令和4年4月> 修士(文学)
	博物館資料論 博物館展示論			博物館資料論 博物館展示論			博物館資料論 博物館展示論	
兼任	講師	内田 俊秀 (72) <令和4年4月> 学士(文学)	兼任	講師	内田 俊秀 (72) <令和4年4月> 学士(文学)	兼任	講師	内田 俊秀 (74) <令和4年4月> 学士(文学)
	博物館資料保存論 伝統工芸概論 ※			博物館資料保存論 伝統工芸概論 ※			博物館資料保存論 伝統工芸概論 ※	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	加茂 瑞穂 (38) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	加茂 瑞穂 (38) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	加茂 瑞穂 (39) <令和4年4月> 博士(文学)
		博物館情報・メディア論			博物館情報・メディア論			博物館情報・メディア論
兼任	講師	村上 隆 (68) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	講師	村上 隆 (68) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	講師	村上 隆 (69) <令和4年4月> 博士(学術)
		日本文化史			日本文化史			日本文化史
兼任	講師	高志 緑 (35) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	高志 緑 (35) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	講師	高志 緑 (36) <令和4年4月> 博士(文学)
		博物館教育論			博物館教育論			博物館教育論
兼任	講師	余谷 和則 (43) <令和4年4月> 修士(環境)	兼任	講師	余谷 和則 (43) <令和4年4月> 修士(環境)	兼任	講師	余谷 和則 (44) <令和4年4月> 修士(環境)
		建築法規			建築法規			建築法規
兼任	講師	西堀 耕太郎 (47) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	西堀 耕太郎 (47) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	西堀 耕太郎 (48) <令和4年4月> 高等学校卒業
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
兼任	講師	大西 英玄 (43) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	大西 英玄 (43) <令和4年4月> 学士(社会学)	兼任	講師	大西 英玄 (44) <令和4年4月> 学士(社会学)
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
兼任	講師	藤本 社介 (50) <令和4年4月> 学士(工学)	兼任	講師	藤本 社介 (50) <令和4年4月> 学士(工学)	兼任	講師	藤本 社介 (51) <令和4年4月> 学士(工学)
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
兼任	講師	堀木 エリ子 (57) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	堀木 エリ子 (57) <令和4年4月> 高等学校卒業	兼任	講師	堀木 エリ子 (58) <令和4年4月> 高等学校卒業
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
兼任	講師	阿部 祐二 (63) <令和4年4月> 学士(政治経済)	兼任	講師	阿部 祐二 (63) <令和4年4月> 学士(政治経済)	兼任	講師	阿部 祐二 (64) <令和4年4月> 学士(政治経済)
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
兼任	講師	宮沢 孝幸 (58) <令和4年4月> 博士(獣医学)	兼任	講師	宮沢 孝幸 (58) <令和4年4月> 博士(獣医学)	兼任	講師	宮沢 孝幸 (59) <令和4年4月> 博士(獣医学)
		しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※			しごと論Ⅰ※
			兼任	特任教授	種村 俊昭 (70) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	特任教授	種村 俊昭 (71) <令和4年4月> 博士(工学)
					構成基礎演習			構成基礎演習
					建築設計基礎演習Ⅰ			建築設計基礎演習Ⅰ
			兼任	講師	藤巻 佐有梨 (29) <令和4年4月> 修士(美術)	兼任	講師	藤巻 佐有梨 (30) <令和4年4月> 修士(美術)
					デザイン作図演習			デザイン作図演習
					建築設計演習Ⅱ			建築設計演習Ⅱ
					建築デザイン演習Ⅱ			建築デザイン演習Ⅱ
			兼任	講師	西村 知敏 (33) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	西村 知敏 (34) <令和4年4月> 修士(文学)
					美学			美学
					哲学			哲学
			兼任	講師	加藤 純芽 (25) <令和4年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	加藤 純芽 (26) <令和4年4月> 修士(教育学)
					人間関係の科学			人間関係の科学
			兼任	講師	古澤 文子 (26) <令和4年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	古澤 文子 (27) <令和4年4月> 修士(教育学)
					人間関係の心理臨床			人間関係の心理臨床
			兼任	講師	川瀬 みゆき (53) <令和4年4月> 準学士	兼任	講師	川瀬 みゆき (54) <令和4年4月> 準学士
					伝統芸術入門Ⅰ			伝統芸術入門Ⅰ
					伝統芸術入門Ⅱ			伝統芸術入門Ⅱ
			兼任	講師	阿部 實志 (49) <令和4年10月> 博士(工学)	兼任	講師	阿部 實志 (49) <令和4年10月> 博士(工学)
					デザインと法規			デザインと法規

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各職の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

--

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

<ul style="list-style-type: none">・ R4. 3種村俊昭教授が専任教員を退職したため就任辞退・ R4. 4種村俊昭特任教授（専任→非常勤特任教授）就任・ R4. 3岡北一孝講師が専任教員を退職したため就任辞退・ R4. 3杏義啓講師が専任教員を退職したため就任辞退・ R4. 4宮内智久准教授就任（専任-新規）・ R4. 4杉本直子講師就任（専任-新規）・ R4. 4砂川晴彦助教就任（専任-新規）・ R4. 3浅見武教授が専任教員（兼担）を退職したため就任辞退・ R4. 4川尻潤特任教授就任（兼担-新規）・ R4. 3村上真樹非常勤講師就任辞退・ R4. 3藤居尚子非常勤講師就任辞退・ R4. 3吉岡利彦非常勤講師就任辞退・ R4. 4藤巻佐有梨非常勤講師就任（非常勤講師-新規）・ R4. 4西村知織非常勤講師就任（非常勤講師-新規）・ R4. 4加藤結芽非常勤講師就任（非常勤講師-新規）・ R4. 4古澤文子非常勤講師就任（非常勤講師-新規）・ R4. 4川瀬みゆき非常勤講師就任（非常勤講師-新規）

【令和5年度】

<ul style="list-style-type: none">・ R5. 3新谷裕久教授が任期満了に伴い学長を退任・ R5. 4新谷裕久教授が副学長に就任・ R5. 4竹脇出教授が学長に就任（新規）・ R5. 4井上晋一教授が学部長兼学科長から学部長に変更・ R5. 4安田光男教授が学科長に就任・ R5. 3永井秀幸講師が専任教員を辞任・ R4. 10白鳥洋子准教授が就任（新規）・ R5. 1黒田祐五講師が就任（新規）・ R5. 3安藤眞吾教授が任期満了に伴い副学長を退任・ R5. 4安藤眞吾特任教授（専任→非常勤特任教授）就任・ R5. 3堀井大継非常勤講師辞任・ R5. 4三木勲非常勤講師担当科目変更（世界建築史の担当を白鳥洋子専任准教授に）変更・ R4. 9松井宏記非常勤講師辞任・ R4. 10阿部寛志非常勤講師就任
--

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)」の設置の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
11	3	8	0	22	0	11	5	7	0	23	0
(11)	(4)	(6)	(1)	(22)	(0)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
11	5	7	0	23	0	11	5	7	0	23	0
[±0]	[+2]	[△1]	[±0]	[+1]	[±0]	[±0]	[+2]	[△1]	[±0]	[+1]	[±0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	2 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{22} = \boxed{104.54} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{2}{23} = \boxed{8.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) 一① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
1	教授	種村 俊昭	R4.3	選択	建築概論	①	R4.3…専任教員を退職したため就任辞退（4）		
				選択	建築計画Ⅰ	①			
				選択	しごと論Ⅱ ※	②			
				選択	構成基礎演習	②			
				必修	建築設計基礎演習Ⅰ	②			
				必修	建築設計基礎演習Ⅱ	①			
				必修	建築設計演習Ⅰ	①			
				必修	建築設計演習Ⅱ	①			
				必修	建築設計演習Ⅲ	①			
2	講師	岡北 一孝	R4.3	選択	世界建築史	②	R4.3…専任教員を退職したため就任辞退（4）		
				選択	構成基礎演習	②			
				選択	構成基礎演習	①			
				選択	デザイン作図演習	①			
				必修	建築設計導入実習	①			
				必修	建築設計基礎演習Ⅰ	①			
				必修	建築設計基礎演習Ⅱ	①			
				必修	建築設計演習Ⅰ	①			
				必修	建築設計演習Ⅱ	①			
3	講師	杏 義啓	R4.3	選択	構成基礎演習	①	R4.3…専任教員を退職したため就任辞退（4）		
				選択	デザイン作図演習	②			
				必修	建築設計基礎演習Ⅰ	②			
				必修	建築設計基礎演習Ⅱ	②			
				必修	建築設計演習Ⅰ	②			
				必修	建築設計演習Ⅱ	②			
				必修	建築設計演習Ⅲ	①			
				必修	卒業研究	①			
				合計（D）				後任補充状況の集計（E）	
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
3	人	必修	18 科目	必修	13 科目	必修	5 科目	必修	0 科目
		選択	10 科目	選択	5 科目	選択	5 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	28 科目	計	18 科目	計	10 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) 一② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	講師	永井 秀幸	R5.3	必修	情報基礎演習	①	R5.3.31付で専任教員を退職したため辞任（5）			
				選択	建築CAD演習Ⅰ	①				
				選択	建築CAD演習Ⅱ	①				
				必修	建築設計導入実習	①				
				必修	建築設計基礎演習Ⅰ	①				
				必修	建築設計基礎演習Ⅱ	①				
				必修	建築設計演習Ⅰ	①				
				必修	建築設計演習Ⅱ	①				
				必修	建築設計演習Ⅲ	①				
合計（F）	後任補充状況の集計（G）									
	辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
	1	人	必修	8 科目	必修	8 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
			選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
自由			0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
計			10 科目	計	10 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)										
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)	①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)						
4	人	必修	26	科目	必修	21	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	12	科目	選択	7	科目	選択	5	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	38	科目	計	28	科目	計	10	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{22} = \boxed{18.18} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)	①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)			
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の就任辞退(未就任)並びに辞任については、新年度に実施する学生向けガイダンスにおいて、丁寧に説明した。また、辞任までに専任教員の交代を行っており、授業および学生指導への影響はないものと考えている。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和4年)	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p> <p>【届出】 遵守事項</p>	<p>・届出時の段階では、22名の専任教員の内6名の教員が完成年度までに定年の65歳を超える見込みであった。</p> <p>一方で今後の教員組織強化のため、新規採用を積極的に行い、開設時まで若手教員を中心に3名採用することができた。</p> <p>また、就任予定であった2名の（退職年齢を超える教員）教員の就任辞退があったことから、年齢のバランスが大幅に改善した。</p> <p>(4) (5)</p>	<p>・今後も教員組織強化のため、新規採用を積極的に行い、安定的な教員組織の運営とバランスのとれた年齢構成となるよう、改善を進める。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<建築学部 建築学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制			
a 委員会の設置状況			
FD活動は「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み」であることから全学的な組織として、学長を委員長として「FD推進委員会」を設置している。			
b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）			
第1回	2022年度FD推進委員会	4月26日（火）	出席者12名 欠席者1名
第2回	2022年度FD推進委員会	6月21日（火）	出席者13名
第3回	2022年度FD推進委員会	9月27日（火）	出席者13名
第4回	2022年度FD推進委員会	12月20日（火）	出席者12名 欠席者1名
第1回	2022年度FD・SD合同研修会	9月13日（火）	出席者32名 欠席者7名 (内、建築学部専任教員22名中18名出席)
c 委員会の審議事項等			
第1回	2022年度FD推進委員会	4月26日（火）	2021年度後期授業評価アンケートのフィードバックと公開について 2022年度FD・SD研修会について
第2回	2022年度FD推進委員会	6月21日（火）	2021年度後期授業評価アンケート結果の公開について 2022年度前期授業評価アンケートの実施について
第3回	2022年度FD推進委員会	9月27日（火）	2022年度前期授業評価アンケート結果について
第4回	2022年度FD推進委員会	12月20日（火）	2022年度前期授業評価アンケートのフィードバックと公開について 2022年度後期授業評価アンケートの実施について
第1回	2022年度SD・FD合同研修会	9月13日（火）	1 開学10周年の歩み 2 京都美術工芸大学の学部・学科構成の変遷と学部・学科の名称変更について 3 2023年度 新設「文化財情報デザインコース」の概要について

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 2022年度前期授業評価アンケート 2022年7月 1日～7月31日の授業の間で実施
- ・ 2022年度後期授業評価アンケート 2023年1月16日～2月5日の授業の間で実施
- ・ SD・FD合同委員会においてテーマを決めて研修会を実施する。

b 実施方法

- ・ グーグルクラスルームにてformsを用いて実施した。
- ・ 全教職員対象のFD・SD合同研修会を上記の内容で実施した。(欠席者には資料を配付)

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ・ 全教職員対象の研修会に出席者32名欠席者7名(7名の欠席者には資料を配付)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ アンケート実施結果の分析による授業改善、教育改善の取り組みに反映
- ・ 教員のFD活動を通して教育力量の向上及び教育活動の促進に期待

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 前期、後期終盤に実施 授業評価アンケート
- ・ グーグルクラスルームにてformsを用いて実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ アンケートの集計結果は、掲示板にて学生に公表する。
- ・ 担当教員には、アンケートの集計結果を個別に通知する。
- ・ 担当教員は、学生アンケートの内容に対し、専用書式にて委員会あて回答する。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>建築学部設置の目的は、日本の伝統的な美術工芸を基盤に京都の地で日本の伝統美の系譜を学ぶとともに自由な発想・斬新な視点を受け継ぎ、新しい日本の美を追求する教育を行う。そして、多様な建築・工芸の世界で必要となる知識・技術を修得させることで、その持っている意味をより深く理解し、新しいモノづくりへ展開させることを教育研究上の目標としている。</p> <p>令和4年度（初年度）の学生募集においては、志願者数531名・入学者数163名となり、入学定員を充足することができた。令和5年度の学生募集においても、志願者数433名・入学者数154名となり、入学定員を充足することができた。</p> <p>今後も志願者へ向けて、趣旨・目的の周知を図り、安定的な学生確保を行いたい。</p>
<p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <p>・令和5年10月1日 公表（予定）</p> <p>b 公表方法</p> <p>・大学ホームページ上に公開予定（令和5年10月1日を予定）</p>
<p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）</p> <p>・平成30（2018）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受審、適合認定を得た。評価結果は大学ホームページに公開済み。評価のフォローアップに対する改善報告書及び本学のホームページに公表は令和2（2020）年度に同機構に提出した。</p> <p>・次回は令和6（2024）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受審予定。</p>

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 []</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

京都美術工芸大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

平成24年 1月26日 制定

平成24年 4月 1日 施行

平成27年 4月 1日 一部改正・施行

平成31年 4月 1日 一部改正・施行

（目的）

第1条 この規程は、京都美術工芸大学（以下「本学」という。）に、京都美術工芸大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置き、本学及び本学の教育職員が教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動（以下「FD」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（ファカルティ・ディベロップメントの定義）

第2条 この規程において「FD」とは、教員が授業内容・方法を改善し、向上させるために行う、大学の組織的な取組をいう。

（任務）

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、FDを推進するための活動を行う。

- （1）授業改善のための基本方針及び実施体制に関すること。
- （2）授業評価の実施に関すること。
- （3）授業方法等の改善のための支援に関すること。
- （4）FDの推進・啓発を目的とした講演会及び教職員の研修等に関すること。
- （5）その他FDの推進に関すること。

（構成）

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- （1）学長
 - （2）学部長
 - （3）教学委員会委員長
 - （4）自己点検・評価委員会委員長
 - （5）事務局長
 - （6）学長が指名した本学の教職員若干名
- 2** 委員会の委員長は、学長とする。
- 3** 委員会の副委員長は、委員の互選により委員長が任命する。

（運営）

第5条 委員会は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

- 2** 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3** 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 4** 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決議し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 5** 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

（小委員会）

第6条 委員会が必要と認めたときは、小委員会を設置することができる。

- 2** 構成員等については、委員会にて定める。

(他の委員会との連携)

第7条 委員会は、FDを推進するため、自己点検・評価委員会、教学委員会などの委員会に協力を求めることができる。

(実施体制の整備)

第8条 FDを推進するために必要な事項については、別に定める。

(事務担当)

第9条 委員会の記録その他の事務は、事務局が担当する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。